

令和7年白老町議会総務文教常任委員会会議録

令和7年3月10日（月曜日）

開 会 午後 3時34分

閉 会 午後 4時34分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. アイヌ文化の継承と担い手対策について
 2. 次期所管事務調査について
-

○出席委員（6名）

委員長	貳又聖規君	副委員長	森山秀晃君
委員	長谷川かおり君	委員	佐藤雄大君
委員	前田博之君	委員	広地紀彰君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事務局長	本間弘樹君
主 幹	小山内 恵君

◎開会の宣告

○委員長（貳又聖規君） ただいまより、総務文教常任委員会を開会いたします。

（午後 3 時 3 4 分）

○委員長（貳又聖規君） 本日の内容については、1、所管事務調査のアイヌ文化の継承と担い手対策について、（1）委員会報告のまとめ、（2）分科会報告について、2、次期所管事務調査についてということで進めさせていただきたいと思います。

まず、1、所管事務調査のアイヌ文化の継承と担い手対策について、（1）委員会報告のまとめについてですが、皆さん資料 1 を見ていただき、主要なところを確認を取りたいのですが、8、調査結果、そこの（1）現状、（2）課題、（3）対策と今後の方向性を飛ばします。（4）委員会の意見、ここの確認をさせていただきたいと思います。

読み上げます、令和 6 年に実施した視察（平取町二風谷、釧路市阿寒町、白糠町）と事務調査を通じて、まとめた意見は次のとおりである。①文化継承と担い手育成の仕組みづくり、（ア）進路確保とキャリア支援。平取町二風谷での木彫り研修の事例に見られるように、受講後の進路を確保し、文化継承に繋げる仕組みが有効であることが確認された。本町でも同様に、研修を受けた若者が文化活動を継続し、キャリアとして成立するような支援体制を強化すべきである。（イ）若手担い手の確保と人材育成。阿寒や白糠の現状から、担い手不足が深刻化していることが浮き彫りになった。本町においても、若者が文化継承に関心を持ち、参画しやすい環境づくりが急務である。特に研修生や若手担い手のための住宅支援や生活支援、全国の大学生を対象としたワークショップの開催など、積極的な人材育成が求められる。②観光振興と販路拡大の戦略強化。（ア）商品開発と観光プロモーションの推進。平取町二風谷の「能作」や「ゴールデンカムイ」とのコラボレーションが示すように、伝統文化を現代にライフスタイルに合わせた商品開発は、観光振興に効果的である。本町においても、地域の特色を生かした土産品の開発や、SNS を活用したプロモーション戦略を強化することで、観光客の誘致と地域経済の活性化を図るべきである。（イ）、広域連携による観光資源の拡充。阿寒、白糠の取組を踏まえ、地域間連携を推進し、観光資源の相互利用を促進することが有効である。特に「ユーカラ街道構想」の実現に向けて阿寒と白老の連携を深め、観光ルートの構築を進めることで、長期滞在型の観光促進を目指すべきである。③国際交流と教育プログラムの充実。（ア）国際交流事業の推進。平取町二風谷でのニュージーランド・マオリ族との交流は、アイヌ文化への誇りと国際的視野を育む貴重な機会となっている。本町でも国際交流を通じて若者の多様な価値観を育む教育プログラムを推進することが重要である。ということであります。

副委員長と私で、皆さんが意見を出していただいた部分を踏まえながら作成をしております。各委員の皆さんからこちらの関係で訂正などありましたら意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

前田委員はいかがでしたか。

○委員（前田博之君） 二風谷となっているが、白糠も。

○委員長（貳又聖規君） あとで追加させていただきたいと思います。

次の（５）まとめ（提言）ということで、①文化継承と担い手育成の支援体制の強化。②観光資源の開発と販路拡大の促進。③国際交流と教育プログラムの充実。ということで提案させていただいているのですが、次の、（２）分科会の報告に移りたいのです。

分科会報告の資料２になります。こちらで、様式の中に出席委員名があります。その下に、意見・要望事項、下記のとおりとあって、活動報告というところがあります。ここについて皆さんに事前に説明したいので、暫時休憩します。

休憩 午後 ３時３９分

再開 午後 ３時４１分

○委員長（貳又聖規君） それでは、休憩を閉じて会議を再開いたします。

活動報告の部分を読み上げていきます。大きな丸、アイヌ文化の継承と担い手対策。（１）アイヌ文化を取り巻く現状、細かいところは読み上げませんが、大きな項目だけ読み上げます。

①アイヌ文化への関心への高まりがあります。アニメや漫画の影響もありと記載させていただきます。②アイヌ文化の担い手育成の取組が必要です。奨学金等の話も出ておりました。環境が整備されているというところです。③指導者のスキル向上と環境整備というお話もありました。④伝承活動の拡大と取組の広がり、ここでご意見は職員のほうからいろいろ出されていましたが、国立の施設であるから活動内容によっては一定の制約が生じるという表現に変えております。

（２）白老町の施策における課題ということで、①日常生活の中でのアイヌ文化との接点の拡大、これは大きな重点内容かと思っています。日常生活や学校生活の中で継続的に学ぶ環境が必要ではないかということでした。②アイヌ語学習の機会と参加促進であります。これは前田委員から出ておりました。やはり地域の中に入ることが必要かなと思います。そして、③子供たちが気軽に学べる環境づくり。④伝承者の育成と発信力の強化。これが前田委員がおっしゃっていたところです。ウポポイでは担い手の育成が進められているが町内に広めなければならないのではないか。

（３）白老町の将来に向けた展望。①言語復興の推進と日常化。②保育・教育環境の整備。③アイヌ語の普及と視認性向上。ウポポイ内ではアイヌ語の公用化が進められているが、町内にアイヌ語に触れられる環境づくりが大事ではないか。④文化に触れる機会の提供と祭り・イベントの活用ということが出されました。

それを踏まえて、お手元にある資料３ですが、これは私のほうで作成したのは何かというと、委員会報告の先ほどのまとめ（提言）があります。それが分科会の中では大きくまとめるとウポポイというキーワードが委員会報告の中になかったのです。それで、分科会の中で政策提言的な、かなり重要なキーワードであったり、そのような内容が入っておりますので、それを委員会報告の中に入れましょうという表です。

そこで、資料3に入りますが、これは現行文書と校正（案）ということで、分科会で出た提言を組み込み運動性を持たせたいので、現行文書と校正（案）の文書をつくっております。（４）、委員会の意見につきましては、先ほどの視察と事務調査をプラス分科会を通じてと入れさせていただいております。次の、①文化継承と担い手育成の仕組みづくり、これは変わらずに。（ア）進路確保とキャリア支援では、文字がアンダーラインで強調されている部分です。「ウポポイで育成された伝承者が地域で活動し続けられる支援策を構築し、研修生がキャリアとして確立できる仕組みを強化すべきである。」というところを追加させていただいています。（イ）若手担い手の確保と人材育成、「ウポポイと連携したアイヌ語学習の機会の提供や」を追加させていただいています。そして、②観光振興と販路拡大の戦略強化、（ア）商品開発と観光プロモーションの推進、「アイヌ文化を日常生活に取り入れる視点を重視し、（例えば、ハワイやニュージーランドのように、街中の看板にアイヌ語表記を取り入れるなど）町内産品にアイヌ要素を取り入れた商品開発や」というところを追加させていただいています。（イ）広域連携による観光資源の拡充、「阿寒並びに白糠との連携を進め、特に「ユーカラ街道構想」を目指すことで、長期滞在型の観光促進につなげる。」また、「ウポポイを活用した国際文化交流イベントを企画・実施し、観光振興と文化普及を両立させることが重要である。」ということです。続いて、③国際交流と教育プログラムの充実。（ア）国際交流事業の推進、追加事項は、「ウポポイを活用し、アイヌ語の普及促進や文化交流プログラムを強化することが重要である。」ということと、新規に、（イ）幼少期からの学習環境の整備。「アイヌ文化の継承を地域全体で推進するため、保育・幼児教育段階からの学習環境を整備することが求められる。言語や伝統文化に親しむ機会を提供することで、子供たちが自然とアイヌ語や文化に触れ、地域の文化的アイデンティティの涵養につなげる」ということです。

（５）まとめの提言。ここでの追部分は、特に「ウポポイとの連携強化が不可欠であることから、ウポポイの理念と連携し、全国的なモデルケースとなるような教育プログラムの構築を目指すべきである。」というところを入れさせていただきました。

先ほども私、冒頭で言いましたが、分科会でのウポポイの職員の皆さんとの意見交換の中から、我々の今回の政策提言の中には、最初はウポポイというキーワードは非常に薄かったなというところがありました。それを踏まえて、委員会報告の提言の中には、ウポポイとの連携強化が不可欠であると、ウポポイの理念と連携して全国的なモデルケースとなるようなところとは非常に大事なのかなと、私も感じておりましたのでそのような意味での校正をさせていただいています。

続いて、下に行きます。①文化継承の担い手育成と地域に根差した活動支援の強化のところで「地域に根差した」にアンダーラインを引いているのは、常々前田委員がおっしゃっていたことだなと思ったので、強調したということで入れさせていただきました。

そのようなことで、変更点は、（ウ）教育機関との連携による「アイヌ語学習機会の拡充（放課後学習の提供、学校外での体験機会の創出）」、そして、（エ）「ウポポイで育成された伝承者が地域で活動し続けられる支援策の構築。」続いて、②地域の魅力を高める観光資源開発と流通

拡大。私たちの最初の委員会報告の提言のところでは、ちょっと薄かったなというところを私のほうでも反省しておりまして、やはり「地域の魅力を高める」というところと、「流通拡大」、これは私たち視察に行ってきた、手工芸品を皆さん売っていました。そのような部分での観光振興だけではなくて、ここの部分も大事かと思い強調させていただきました。ア)、アイヌ文化を日常生活に取り入れるための、商品開発と情報発信の強化。続いて、③多文化共生と言語継承を支える国際交流・教育プログラムの推進。新規に追加で、(イ) 幼少期からの学習環境の整備。(ウ) アイヌ語の普及と視認性向上、と入れさせていただき、委員会報告の提言・まとめの部分は、この分科会を経て、それを取り入れた政策提言ということで取り入れたいというのが、私、委員長と副委員長の提案でございます。以上でございます。

それぞれ、今不足している点、説明不足のところもありますが、ご意見等も賜りながらと思いますが、いかがでしょう。

前田委員。

○委員（前田博之君） ウポポイが出てくるのですが、ウポポイと連携と出て来ているが、大変いいことだと思いますが、どちらが主体的に関わるのかというところの整理をしなければ、学芸員がいみじくもいったのですが、「我々は使われている身なので何も言えません。」そのような中でどのように関わるかということです。議員ではなくて行政もアイヌ協会も関係してくる。ウポポイが社会教育的施設として、地域外にどのような関わりを主体的に目指すのか、(聴取不能) そのような関わりが薄いような気がして私はそのように思っただけです。

○委員長（貳又聖規君） 私のイメージなのですが、実は今日の次第の2番目の、次期所管事務調査について、(1)、町職員の人材育成、地域おこし協力隊の活用、地域貢献の在り方とあります。今、町職員の副業など、そのような地域貢献の在り方も一つだと思っていたのですが、前田委員いかがなのでしょう。ウポポイの職員の方々、「地域に出たいのだよ。」という声があったのかと思うのです。そのような皆さんが、実は地域貢献できるような仕組みをつくることも一つなのかなと。すなわち、私が思っていたのは、町職員というのがここでは主語だったのですが、けれども町民の皆さんの能力を活用できる地域貢献の在り方の仕組みを探るということを、次の所管事務調査でできたときに、ウポポイの方々のお力をうまく仕組み化できるところもあるのかなとも思っておりました。

もう一つ、前田委員がおっしゃる「どこの部分が」というところですね。ウポポイであったり、役場であったり、アイヌ協会であったり、これは、本当に申し訳ございません。もっと議論を深めなければならないのかなという私の反省です。今回、限られた時間の中で展開しておりましたが、私どもの今回の調査というのは、前期の吉谷委員長時代、ここは本当に前田委員も佐藤委員も入っている中で、そこからの積み上げで来ているなというイメージを私は捉えています。そのときは、白老アイヌ協会さんなどとの意見交換を踏まえて、今回はウポポイの職員の皆さんとやることで違う提言が出て来ているのかなと思っておりまして、前田委員のご指摘のところは、まだどこかでしっかりと時間を取って提言につなげていきたいなと思っています。これは私の反省です。

広地委員。

○委員（広地紀彰君） 前田委員からいただいた視点は、この間、2月6日の分科会に参加させていただく中で、予想外にウポポイの皆さんが白老との関わり合いを、私が非常に印象的だったのは、「自然に」、「触れる」、アイヌ文化というような肩肘を張るのではなくて、自然な形で子供たちに興味をひかせるような形の取組を、若い方というのもあって、地元貢献というか、そのような考え方をお持ちなのだと。正副委員長案の中でも、白老町役場が中心となり関係機関や地域住民との連携を強化することで、以下の点を推進することができると記載されている中で、関係機関とは、きっとウポポイのことを意識しているのかなと感じていましたので、踏まえられているのかなと感じています。

特に子供たちとの関わり合いを大切にしているなと総論として感じましたので、多分、委員長の思いとして、まとめを（提言）と書いています。そこを強調しているのかなと思いますので、委員の皆様意見をきちんと具体化させていこうという意気込みを感じましたので、私はこれでいいのかなと感じました。

○委員長（貳又聖規君） 長谷川委員。

○委員（長谷川かおり君） 私も、広地委員のご意見に賛同したいと思います。

今回、ウポポイに行って職員と話ができたことはすごく進んだなと思います。ウポポイができたころは、国の施設だからということで町も間をおいていましたし、（聴取不能）という思いもあったのですが、やはりこれは積み重ねた中での今回の対案が実現できたというのもあると思うのです。皆さんの積み重ねてきたことがこのような形になったのだと、それは職員も、自分たちも子供のころの経験をしながら、アイヌ文化、地元のユーカラなどの文化を、子供のころの経験があってウポポイで活躍したいと思って白老へ来て下さった方たちもいるので、そのような思いをいかに白老の子供たちに広げてくれるかなという私は期待もありますし、職員のやってみたいという思いもあるし、国の職員という立場もあるのでなかなか難しいとは思いますが、これを機会にこちらからもイベントの提案など、何かしていきながら一緒にやっていけるような、それを町とも一緒に絡んでいけたらと私は思いました。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員、もう一度総括的にいかがでしょうか。まだいろいろと気づかれた点等あると思いますので。今回の進め方も大丈夫ですか。

前田委員。

○委員（前田博之君） 先ほど言ったのでいいです。

○委員長（貳又聖規君） 佐藤委員。

○委員（佐藤雄大君） まとまっていると思います。全体的にというか、未来を見据えた議論や意見交換が多かったかと思います。その点も含めてここには記載されているのでいいかと思います。全国的なモデルケースとなるような教育プログラムを目指すべきというのが一番だと思いますので、先進事例、多分白老町にしかできないことだと思いますので、引き続きこのような提言と全議員に私たちも提言したようなところも含めて、白老としてどのようにあるべきかということも、経過観察もして行かなければならないと思いました。

○委員長（貳又聖規君） 森山副委員長。

○副委員長（森山秀晃君） 佐藤委員のお話とつながってしまうかと思うのですが、実際に直接ウポポイの方々ともお話ができたので、それを踏まえてアイヌ文化のところは今後も追っていかねばいけな部分は多々あると思いますので、この後、また、人材育成を次期所管調査でも行っていくのと、アイヌ文化をもまだ追っていく形になると思うので、そこを踏まえてしっかり進めていけるように、伝承・保存が進むようにしていかなければというのは再度認識したところであります。

○委員長（貳又聖規君） ここでもう一度、皆さんから意見をいただきたいのですが、私が思うのは、今回、町長の執行方針が出されました。アイヌ文化に関わるところはもちろん出されておりますが、新年度の予算もそうですが、我々のまとめとしての委員会の委員の意見や一つの提言的な部分でいうと、まちの今までの取組の中にはない新たな提言が入っていると私は思うのです。今回、同僚議員からも一般質問で、議会の委員会で提言されたことの、町の政策反映のようなご質問も出ていますが、委員会報告をしたら終わりということではなくて、今後、次期所管事務調査の中でもまたアイヌ文化を取り扱いますが、これをしっかりと町へ政策提言できるような具体的なところ、このご助言、進め方としてありますか。

前田委員。

○委員（前田博之君） 全体的に提言しているのです。委員長が言われたように今回の議会で、町がどのように反映したか。本当に、どのようにするかということが、委員一人一人が考えなければだめだと思うのです。そして、前にも言っているように、この委員の中で、このテーマで質問して町の考えをただすとか、そこまできなければ、私も過去に質問対して追跡質問はしているのだけれど、そのような精度をして行かなければ、毎回でなくてもいいです。結果的に報告で終わるのです。過去も地域の中で、虎杖浜から社台まで、今言ったアイヌの問題や経済の問題、何があるかと言ったら、先輩議員方、それなりの地位の人であったり、町民の肌感覚で議場で言うのです。町長の政策を出しているのに、（聴取不能）声に出して言うのです。それによって、町側も議論はできないというでしょうし、考えるというのです。そこが、議員が都合よくつくろって、（聴取不能）、議場で議論できるような体制をつくっていかなければ、うちの委員会なら委員会でもそのようなことを9月なら特に質問したいというのであれば別ですが、この中でどうですか。委員長が先頭を切ってこれだけはやってほしいとか。予算等審査特別委員会でも言えるのですが、それをしなければ町側は結果的にその場で終わるのです。そう感じているとは思いますが、町側から議員の資質が問われるのです。町側はなぞったような答弁をしておけばいいというようになってしまうのです。そこを感じてほしいと思うのです。

○委員長（貳又聖規君） 今回、アイヌ文化の関係で所管事務調査を取らせていただいて、ウポポイの現場の方々の意見というのは切実で、まちの子供たち、アイヌ文化の未来につながるだろうなというところがたくさんあったので、これを今までの白老町の立場であったら、「それはウポポイの取組。」というような壁のようなものがあつたかもしれませんが、そのようなところは風通しを良くする展開は、町の仕掛けによっていろいろ変わってくるのかなという気もし

ております。これは、いかに政策提言を実現して行くかというのは、今後、また委員会を進めていく中で、私たちの精度も高めなければならないと思っております。

議会運営委員会とも連動しながら進めていけたらと思います。政策提言を実現するためのご意見ありますか。

広地委員。

○委員（広地紀彰君） 文言としてよくあるのが、今後も注視していくなどと最後にまとめて書きました。それを、いわゆる絵に描いた餅にしないという議論だと思います。だから、確かに議員としてそれぞれ個々の判断の中で、より積極的になってほしいという主旨はよく分かりました。何を積極性というかという部分が当然あるかと思います。一般質問で取り上げられてもおもしろいですし、いろいろなやり方の中で、果たされなければいけないことなのかなという受け止めを、今、していました。委員会としてどのような立ち回りができるかというのは、私にはまだ見えておりません。持っている物の重さと、国の施設だけに若手の方と話したことが、ストレートにその若い人たちに責任を負わせるような形にならないために、議員間討論を含めて配慮しながら進めています。さすがに国なのだと感じているところもあるので、相手の立場なども配慮しながら、できれば、まずはウポポイのあるまちとして、できることは何かから取組んでいきたいというのが、感想含めてになります。

○委員長（貳又聖規君） 限られた時間ですので、こちらのほうは委員会報告よろしいですね。また、私のほうで作成して、皆さんと共有させていただきます。

続いて、2、次期所管事務調査について。

本間事務局長。

○事務局長（本間弘樹君） 記載のとおりですが、この委員会の中で今後の次期所管事務調査をどのようにしていくかということで以前お話をして、項目を整理したものになります。

次回、4月以降の所管事務調査として、キーワードとして、（1）町職員の人材育成、地域おこし協力隊の活用、地域貢献の在り方ということで、キーワード出ておりましたので、具体的なテーマ設定、調査の内容を含めて、今日お諮りしたいと思います。

○委員長（貳又聖規君） 今のところ、私、正副委員長案ということで、（1）、町職員の人材育成、地域おこし協力隊の活用、地域貢献の在り方ということで、今、4月の21日からの週、4月は人事異動などもあったりで、4月の21日からの週に総務課と地域おこし協力隊は企画財政課になるのですが、一旦、そこでの所管を取らせていただきたいと考えております。実際に今、総務課では人材育成の関係で自主研究グループの制度、町における研修制度を確立して新たな制度を始めるといいますので、そのようなことも今回とても参考になるのかと思っております。

昨年、町職員も積極的に視察・研修など、そのときにテーマが「職員の兼職」、そのようなことも研究されているチームもあるので、そのような皆さんとの意見交換の場ということも想定して考えております。まずは、4月の21日からの週くらいに総務課と企画財政課と調整したいと考えております。これに関して何か、このように進めた方がいいのではないかなどアド

バイス等があればお願いしたいと思います。ご意見を賜りたいです。

前田委員。

○委員（前田博之君） 委員会で1年もかけて、具体的に今委員長が言ったことは分かるのだけれど、今委員長が言ったことはある程度抽象的というか（聴取不能）、最終的には理事者が決めることなのです。（聴取不能）、人材育成は説明して終わりなのです。それ以上進まないのです。何を言いたいかというと、（4）ですが、新年度予算見ても庁舎ももう予算は組んでいるのです。実施設計ではなくその前の段取りの予算を付けていたら、方向性が出てくるのです。合せて、現実は今町が何をやっているのか、やはり町長が（聴取不能）場所をどこにするとか、そのようなことを先取りして、具体的な予算で上がっているものに対して先見の芽のある提言をするというのはいいと思うのです。（1）について否定はしませんが、もう折り返しですから、ある程度委員会としても、現実で今町議の大きな課題は何だろう。そのようなことを先取りして提言をすると。これは議会で色々な言われて予算が付いたものです。そういう部分のような足取りは委員会として必要ではないかと思いますがいかがでしょう。

○委員長（貳又聖規君） 今、前田委員からご指摘、ご助言の部分でいくと、本当にそのとおりだなと思ひまして、タイミング的にも今回の新年度予算等も踏まえて執行方針、役所の建設位置などが出てきますが、私ども正副委員長案ですと、（4）として後ろのほうに思ひておりましたが、今、先にやることで非常にいい議論ができるのかなと私も思ひました。

前田委員。

○委員（前田博之君） 場所にしても、変な言い方ですが、若い職員は白老にいても分からないのです。意味わかりますね。議員さんも全て分からないのだけれど、我々は地勢図を見たり、現地を歩いて、地震の関係で、ここの場所がいいんだと。いやいや町がここだと言ったら、ここはやはり津波が来たらどうなのでしょうかと。決定じゃなく、それくらい踏み込んでしていかなければ無理です。庁舎建てる議会何やっているんだという話になるのです。

○委員長（貳又聖規君） 今、前田委員から意見が出ましたが、いかがでしょうか。防災庁舎整備、ここを先に手掛けていくと、調査していくと。皆さんのご意見はいかがでしょう。

佐藤委員。

○委員（佐藤雄大君） 今、前田委員からおっしゃっていただいたとおりで、委員会視察の年度にあわせてもいいのではないかと思いますので、来年に調査して実際に視察をしてやるほうが流れとしてはいいのではと思います。

○委員長（貳又聖規君） 今、事務局とお話したのは、正副委員長案でいくと、実は（4）防塞、庁舎整備というのは、1番最初にやる予定だったのです。ところが、いろいろと中身も決まっていなかったものだからということで、とりあえず一番後ろに持ってきていたという経緯があったのです。今年度そのようなところが、まちの動きが加速してきている状況もあるということで、すみませんそれは私のうっかり、落としていたのです。

広地委員。

○委員（広地紀彰君） 今、前田委員と佐藤委員から話がありまして、確かに町としてはこれ

からということで、予算化もされていく中で審議する立場ではなくて政策的に提言していくのが大事だとこれ以外にも言われている中で、例えば、当然防災拠点としての観点があるし、まちの賑やかしの中心にもなるし、いろいろな観点があると思うのです。そのような部分をまちが出してくる前に話し合うことにはすごく意味があるのではないかと、提言的な部分として価値があるのではないかと考えています。ただ、順番に、確かに佐藤委員のご指摘のとおりで、視察も兼ねたほうがいいのではないかとという部分と、今年は多分大まかな、基本計画という話ではないと思うのです。ロードマップはつくりたいという話だったので、基本計画策定の前後までには私たち議会の議論もしておく必要があるのかなと感じています。

それと、部活動の地域移行は前回かなり精力的に取り組んで延期までしてやっていく中で、なかなか指導者が見つからないという主な理由しながら進んでいかな部分もあるのです。検証を含めてやっていく考えなのかなと思ったのですが、例えばこれ、委員の皆様の意見も聞きしたいのですが公共施設の適正配置の関係です。総施設の3割を削減するということで既存の今利用している施設も廃止・統合していく考えています。

私のもとには結構、白老町中のなんとなく対象になり得る施設を使っている方から心配の声が上げられています。町側にも私も再三、一般質問で皆さんご承知のようにやっています中では、つぶすときにはきちんと話を聞くというのはある程度は町側も示してくれています。ただ、どのような形でどこがつぶされるのかという部分を私は丁寧にやるべきだと思っていますので、そのような部分をどこかで、例えば、部活動地域移行は2期かけてと考えられていると思うのですが、公共施設の適正配置、委員の皆さんのご意見も聞きながら、もしかちとるのであればそれも入れてはどうかなと思います。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 今、広地委員が話されたのは大事なのです。まず予算等審査特別委員会では他の議員も質問します。今回見直し案が出ます。広地委員が話されたように、結論からいうと年度に優先順位をつけていたのです。それが、議会がある程度施設の縮減なり、老朽化の区分、これらを含めて明確にしなければだめなのです。何を言いたいかというと、今町は予算査定で上がってくるのです。森野小中学校が地域の美観を考えていた。森野小中学校に先がありますか。それはやはり委員会でやるのがある程度きちんと施設を見て、優先順位をつけて、中央生活館を壊すために設計委託をしています。そのようなことが財源を付けて、最低5年なら5年でいいのですが、これとこれは老朽化で施設を解体する経費、予算の中の最低5,000万円でもいいし考えています。その中でどのようにするのかということであって、我々の周りも全部を見て地域の声を聞いているのかと。これを先にやって、仮に白老小学校が必要だと、一気にできない何億円かかるのか。白老小学校の解体に1億5,000万円かかるのですから、5,000万円だと3年かけてやってくださいとか。そのようにはっきり委員会で言えるかどうか。それがやはり予算や決算のチェック、悪いけれど姿勢を持って言わなければ、誰かがやるだろうと言ってもできないのです。それで結果的に広地委員が言ったのです。だけど、何もやらないのです。

(聴取不能) 民意とすれば、やはり先に、広地委員の虎杖浜の公民館も出て来ているのですから、これを壊さずに使うとなるとどのように直すのか。虎杖浜生活館に移行するから公民館を壊すと、このようにしなければ、議員からきちんと伝えなければ町から報告あったことをやっても、そこまで取り組んでやるのならということです。

○委員長(貳又聖規君) 今皆様からご意見いただいたところを、今日は決められませんが、もう一度正副委員長案で揉んで出させていただきたいと思います。ただ、皆さんにご理解いただきたいのは、この(1)町職員の人材育成など書いてありますが、現状でということで皆さんのご意見を聴かせていただいて、我々委員会としてもしっかりと政策提言、今のまちの動き、取り巻く時代背景もありますから、そこも踏まえてもう一度作り直してもいいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長(貳又聖規君) それでは、この正副委員長案を3月会議の会期中にお示しをして、また皆さんからご意見をしっかりといただきながらスケジュールを組み立てていきたいと。4月からのということでいくと、公共施設の適正配置についてやってみましょうか、いかがでしょう。

皆さんのご意見を賜った中でいくと、庁舎の関係は計画等も進むけれども、来年の視察にも合わせながら、連動しながら進めていこうというのはいいと思ったのです。

新年度、4月からの所管事務調査は、地域おこし協力隊、これは過去にやっていますから、それであれば、一旦、公共施設の管理計画、まちの全体ビジョンを我々のほうで把握しながら調査して、そして来年は庁舎に行きましょうという流れであればとてもいいのかなと思いました。

それで、今、事務局からお話がありましたが、最終日の委員会報告には4月の所管事務調査を決めなければいけないので、そこでいくと方向性としては、公共施設の管理でいかがかなと思いましたが、ご意見どうぞ。

森山副委員長。

○副委員長(森山秀晃君) 庁舎の部分と公共施設の部分は連動して考えていかなければいけない部分なのかなというのがあったので、連動して考えていくとなったときに、公共施設だけ先というのは、ほかの地域の例も見せてもらって視察に行った上で、庁舎プラス公共施設と、合わせての提言がより効果的な提言になってくるのかなと思ったので、4月から公共施設に入るというのは、だいぶ長くやる形でいくのであればいいと思うのですが、そうでなければもう半年遅らせてもいいのかなと思います。10月から公共施設と庁舎、その次の9月までの1年間でやるのも一つかなと思いました。

○委員長(貳又聖規君) 森山副委員長からもご提言いただきましたが、まず(2)部活動の地域移行、これは私たち委員会報告でもしっかりと追跡調査しますということなので、必要なかと思うのです。であれば、皆さんの意見を踏まえて再度構築すると、最初は公共施設や庁舎も踏まえた全体的な白老町のあるべき姿を踏まえながら、そこには公共施設の管理計画もあるし、庁舎の話もあるくらいの半年間の調査をさせていただいて、その後、部活動の地域移

行を半年間やらせていただいて、そしてまた、来年新年度に防災・庁舎の関係を視察も組み込みながらというのが、今皆さんのご意見を聞きながらいいのかなと思ったのですが、いかがでしょうか。

広地委員。

○委員（広地紀彰君） おおむね、委員長がまとめてくださった案でいいと思います。私、なぜ公共施設化ということなのですが、地域づくりと関係があるのです。例えばつぶすものはつぶすと、そのようなことは正直っていつて話し合う議論の意味はないのです。それに対してどのような配慮が必要になるか、その地域はどのようにして賑わいを維持していくのか、町民活動をどのように支えていくのか、というようなことが求められていると思うのです。庁舎整備に私が賛成しているかという機能性の問題です。どのような機能を持たせていくか、例えば図書館というのは、皆さん目にしているかと思いますが、ほかにも経済センターもボロボロです。見た目は見栄えがするのですが実際には本当にボロボロなのです。雨漏りもひどいですし、そのようないろいろな部分を見つめた中で、庁舎の果たしていく役割とその整備の仕方は議論の余地があるのかなと思ったので、私はそれぞれでいいのかなと思います。

ただ、順番もあるし、去年多くの方も参加されていますが、役場の職員の方が研修してそれを報告会にして報告をコミュニティセンターでしました。途中まで私も参加できたのですが、すごく生き生きとしてある町民の方がこのように言われていたのです。「やらせてあげてほしい。」と。「ただいい勉強をしてきましたで、終わらせないでほしい。」とある方から言われました。私も本当にそう思うし、それが人材育成につながってくるのかなと思うので、正副委員長でこのような観点も出されたところは賛成しますので、ぜひ整理した上でこの観点をきちんと網羅できるような形の所管づくりでお願いしたいと思います。

○委員長（貳又聖規君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 森山副委員長が話されたように、よく考えたら庁舎と公共施設は切り離されないのです。庁舎に防災機能を持つとしたら、既存の施設をどうするか。どのような使い方をするのか切り離せない。庁舎と公共施設を合わせた中でやったほうがいいのかなと、佐藤委員が言われたように秋くらいから勉強して、その前の今年の前半を何をするのか。そうすれば私も先ほど質問したのですが、部活動の地域移行は課題に持っていくのです。それを一度整理して、現実問題として今困っているのをやったほうがいいのかなと思うのです。

そうすれば、4月から、前回やっているのだけれど、前回よりどこまでやったか、あるいは今度の教育長にどのような捉え方をしてくれるのか。それが必要かと思っています。

○委員長（貳又聖規君） 貴重なお時間、皆さんのご意見賜りました。

これを踏まえて、正副委員長案でもう一度皆さんにお示しして、最終日の委員会報告では4月からの所管事務調査はこれをやりますと報告できるようにしたいと思います。

ほか、その他として事務局からありますか。

本間事務局長。

○事務局長（本間弘樹君） 今の件で確認ですが、次期所管事務調査ということで、委員会報

告とは別に所管事務調査、これを取りますということを最終日に報告する形になりますので、その項目の設定を今、正副委員長の一任で決めるということです。

その他で、昨年視察で、釧路・白糠へ行ったときの決算書になります。上段が収入になっていまして、皆さんの旅費と事前に各1万円徴収させていただきました。下段が支出になっていまして、航空運賃、お土産代、これは事前に支払った分と当日現地で支払った分、高速料金以下記載のとおりであります。55万9,803円、6,923円不足が出ましたので、こちら議長と私のほうで端数整理、お志を議長からいただき清算し、差引ゼロとなっております。

○委員長（貳又聖規君） 細かな決済、領収書は私が目を通させていただいております。

◎閉会の宣告

○委員長（貳又聖規君） それでは以上をもちまして、総務文教常任委員会を閉会いたします。

（午後 4時52分）